



えんだより R2.8



先月末、長い梅雨が明けました。今年の梅雨は期間こそ長かったものの、例年に比べるとあっさりとした日が多く過ごしやすかったように思います。子どもたちは、相当の雨でない限りプールに入っていました。担任は気温や体調に気をつけ、時間を調整したりしながらではありましたが、子どもたちにとっては“プールに毎日入られる！”ということが、何より嬉しそうでした。そして、その毎日のようなプールでは、潜る・泳ぐ・顔付けが出来る・水しぶきを怖がらない・ワニ泳ぎが出来る・プールに入られる…などそれぞれが大成長の姿を見せてくれるようになってきました。きっとお家でもそんな話題が出ていることでしょうね。夏本番はこれからです。もっともっと夏ならではの遊びや生活を楽しんでいこうと思います。

園長と子どもたちのおもしろ会話集

～給食の時、いつも子どもたちと楽しく食べています！～

その①(園長)「今日はカレーだね～」

(子)「保育園のカレーは特別美味しいが～」

(園長)「何でだろうね～」

(子)「家のはカライもん。
保育園のは子どものカレーだけんだわ～」

その②(子)「先生おじいちゃんだ～？」

(園長)「なんで～？先生は女だけん
おばあちゃんだわね」

(子)「おばあちゃんはやせとって
おじいちゃんはふとっちょだよ～」

(園長)「なるほど！！じゃー先生はおじい
いちゃんだね～！」

…納得！やせないとな～！

おばあちゃん目指して！！

その③メロンの緑色がなくなるまで
食べていた子どもたち。私が
食べたのを見て…

(子)「せんせー、メロン残し
たらいけんよ」

(園長)「食べたが～」

(子)「メロンは皮の近くまで食
べらんといけんよー」

(園長)「じゃー、頑張って食
べるわー」

…と、子どもたちのよ
うに皮ギリギリまで食
べたところ

(子)「よっしゃー！！」

～子育てハッピーアドバイスより抜粋～

Q:すぐ“かんしゃく”を起こします。どう接すればいいのでしょうか？

A:1歳を過ぎると、子どもは次第に喜怒哀楽がはっきりして手がかからなくなってくるのですが、特に男の子だとお母さんも大変です。その中でも特に大変なのが“かんしゃく”です。かんしゃくと言うのは、自分の思い通りにならないと激しく泣いたり、わめいたり、ひっくり返したり、手足をばたばたさせることです。他人が思うようになってくれない時だけでなく、自分が出来ないことに対しても起こします。

かんしゃくを見ると「すぐ感情的になる」「わがまま」と思ってしまいがちですが、実はかんしゃくは、子どもが成長する過程でどうしても通らなければならないものです。これは、子どもの心が成長して自分の要求をはっきり出すようになってきたのですが、まだ周りの状況を判断できないのでそのジレンマがかんしゃくになるのです。

ですから、まずは子どもの心が自己主張できるくらい育ってきた証拠で、喜ぶべきことです。かんしゃくを起こす理由は色々あります。お母さんに何かしてほしい時・お母さんと一緒にいたい時・一人でやりたい時・眠い時・お腹が空いたとき・疲れた時etc…。大切なことはかんしゃくを「わがまま」「悪い子」と決めつけて叱るのではなく、またかんしゃくを起こしては困るからと子どもの言いなりになるのではなく、子どもの気持ちをくんでやることです。

人生は、確かに思うようにならないものです。しかし、その悲しい気持ち・辛い気持ちを親にわかってもらうだけで、子どもはその気持ちを受け入れ乗り越えることができるようになります。「嫌だったんだね」「自分でどうしてもしたかったんだね」と子どもの気持ちをくんでやり、抱っこしてやるとかんしゃくも次第に収まってきます。それによって、自分はお母さんに大切にされているという心の安心も生まれますし、人の気持ちもくむことができるようになり、思いやりの気持ちが育つ土台になるのです。

(園長 田中※筆)